



令和4年度対エルサルバドル共和国 草の根・人間の安全保障無償資金協力 「ヌエバ・グアダルペ国立病院透析センター建設計画」 引渡し式の開催

2026年8月27日、前田慎司参事官はロナルド・ペレス保健政策・管理局長、アレクシ・ロメロ・カンポ財団代表、カレン・アレリ・フンダヘオ財団代表、マリッツァ・マリソル・スーラ・ヌエバグアダルペ国立病院長と共に、保健省が承認した設計方針に基づいて造られた「ヌエバ・グアダルペ国立病院透析センター建設プロジェクト」の引渡し式に出席した。

新たに建設された透析センターにより、同病院管轄下17市の腎臓病患者（年間約1,000～1,500名）が、透析が必要となった場合に同施設内で診療を続けることが可能となる。これにより、遠方の他病院へ通院する必要がなくなり、患者及びその家族の肉体的かつ経済的な負担が軽減される。

ヌエバ・グアダルペ国立病院
透析センター



❖ エルサルバドルの国樹であるマキリシユアをエルサルバドルと日本の友好と協力の証として植樹した。



❖ヌエバ・グアダルペ国立病院透析センター全景。

日本大使館はこうした状況を踏まえ、草の根・人間の安全保障無償資金協力（APCS）を通じて、病院の管轄下にある17市から来院する腎臓病患者への医療サービスの改善に貢献することを目的として、このプロジェクトに対し175,031米ドルを供与した。この資金は、仮設倉庫、基礎の掘削・埋め戻し、構造コンクリートの施工、屋根支持用の金属構造物や屋根の覆い材の設置、コンクリートブロック壁の建設、床貼りおよび犬走の設置、仕上げ工事（塗りや磨き、ペイントなど）、電気設備の設置、監督に使用された。

カンポ財団からは、8,754.94米ドルの供与を受け、詳細設計の作成、標識や看板、記念プレートの設置が行われた。

フンダヘオ財団は、エアコンの供与と設置、塗装や資材を提供し、その額は5,885.34米ドルであった。

ヌエバ・グアダルペ国立病院は、天井、窓、ドア、家具、エアコン、機械換気設備、衛生器具や配管設備の供給と設置を行い、その額は100,000米ドルに上った。最終的に本案件の総額は290,671.28米ドルとなった。



在エルサルバドル
日本国大使館参事官
前田慎司

ヌエバ・グアダルペ国立病院では、年間1,000名以上の腎臓病患者を診察しているが、そのうち約160名は透析を必要とする。こうした患者は遠方にある別の病院まで移動しなければならない、距離や時間、費用の面で大きな負担がかかる。このプロジェクトにより本病院に透析センターが設置されることで、腎臓病患者にとって大いに役立つことが明白である。

1990年以降、「誰一人取り残さない」というスローガンの下に、日本はエルサルバドルで459件にのぼる地域開発プロジェクトに貢献し、約4,000万ドルの投資を行ってきた。中でも最も重要なことは日本からの支援ではなく、皆さんが代表するような、エルサルバドルコミュニティの自助努力の精神である。エルサルバドルの友人として、日本はより豊かで持続可能な未来のために、これからもエルサルバドルコミュニティと協力していく。



ロナルド・ペレス
保健政策-運営局長

まだ為すべきことは多くある。透析センターは、病状が進行し透析を受けざるを得なくなる前に早期に腎臓病を発見するためのフィルターである。早期の段階で病気が発見されれば、我々にとって治療の機会が増し、病気に対処し治療を施すため家族や患者に提供できるものも増える。本日この透析センターが開設されたことに心から感謝している。これにより、患者の自立性と家族の支えを促し、保健教育とその増進を進め地域への健康サービスを可能にする。

この透析センターの恩恵を約1,500人が受けるであろう。本案件に関わった人々、この施設を実現し運営していくために携わる人々すべてに祝辞を述べたい。皆さんの成功を心から祈り、我々の意欲と推進力が物事を前進させ、患者やコミュニティ、そして地域住民が必要とする医療サービスを提供できることを常に心に留めおこう。



アレクシ・ロメロ
カンポ財団代表

約10年前、家族の一人、娘の腎臓の問題に直面しなければならなかったことがあり、この病気が何を意味するのか、家族にとって何を意味するのかを知っている。それは感情的な面だけでなく、経済的な面でもある。そして自分がそれを経験したことで、このプロジェクトに深く共感できるようになった。だからこそ、本案件に関わるようになったとき、チーム全員が携わり、今日ここで完成した透析センターにたどり着くことができた。夢として始まったことが、現実のものとなった。

今、このレベルの健康問題を抱えている人たちは、必要な条件を備えた施設に行くことができる。そして、その条件というのは、質の高く尊厳のある支援を提供するのに優れたものだと言える。ヌエバ・グアダルペ国立病院には適切な人材も揃っており、人々がより質の高い生活を享受できるような支援を可能とする。我々としても、他のプロジェクトと同様に、本案件に貢献できたことで非常に満足している。



在エルサルバドル日本国大使館が「草の根・人間の安全保障無償資金協力」を通じて実施している案件は、「人間の安全保障」の概念である「人間一人ひとりに着目し、生存・生活・尊厳に対する広範かつ深刻な脅威から人々を守り、それぞれの持つ豊かな可能性を実現するために、保護と能力強化を通じて持続可能な個人の自立と社会づくりを促す考え方」のもと、エルサルバドル国民、特に国内で最も脆弱な地域の生活環境の質を改善しようと試みるものである。